

特別の教科 道徳 授業づくり講座

第1回授業研究会(令和2年10月6日) 高知市立一宮中学校

発行 令和2年12月
高知市教育委員会
学校教育課

【主題名】 命の尊さ D-1(19)
【教材名】 「くちびるに歌をもて」(3年「新しい道徳3」東京書籍)
【授業者】 土合 優歩 教諭
【ねらい】 命を脅かすような困難の中で、あきらめることなく何としても生きようとした主人公たちの姿を通して、ずっとつながってきた一つしかない生命を守り、これからにつなげていこうという心情を育てる。

提案授業

【授業を通して
引き出したい生徒の考え】

- 命は一つしかないからかけがえのないものであり、何よりも大切なものである。
- 今まで受け継がれてきたこの命を、これからは大切に受け継いでいかなくてはならない。

○主な発問 ◆中心発問(問い返し)

○一人暗い波間に浮かんでいたマッケンナはどんな気持ちだったのでしょうか？

- ・言いようのない、暗い気持ちに襲われている様子を想像させる。

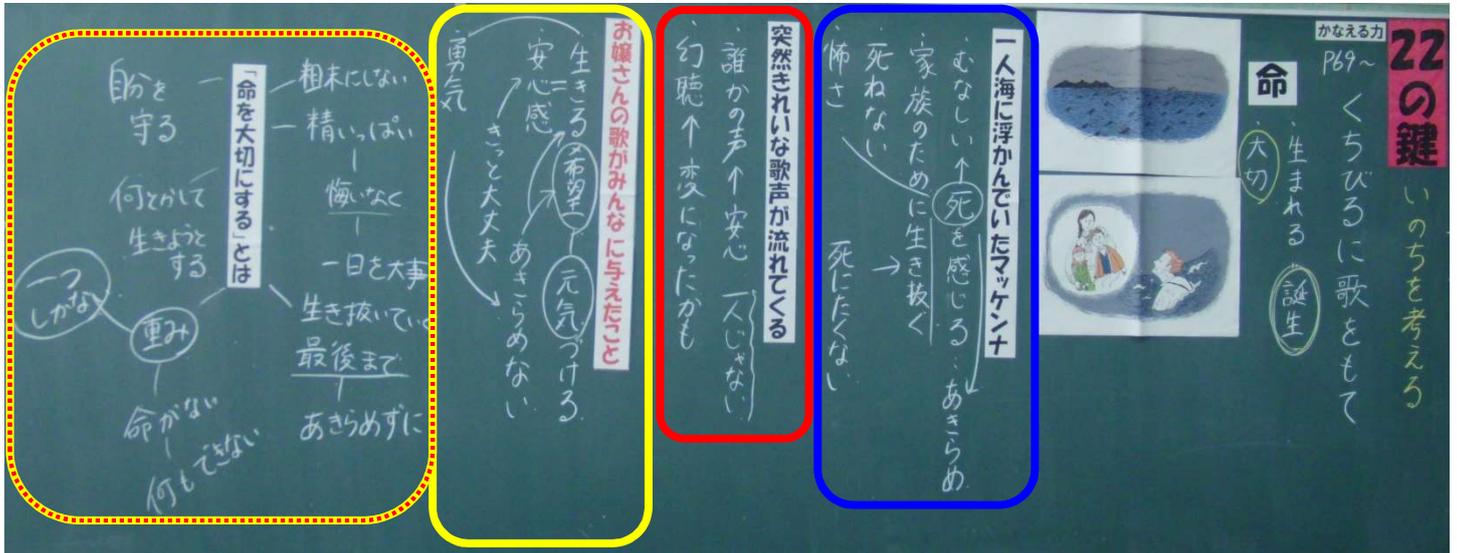
○突然きれいな歌声が流れてきた時、マッケンナはどのようなことを考えたのでしょうか？

- ・気味悪い静けさの中から突然きれいな歌声が流れてきた時のマッケンナの気持ちを考えさせる。

◆お嬢さんの歌はみんなにどんなことを与えたのでしょうか？

- ・まず個人でワークシートに記入してからグループで意見交換させる。

◆「命を大切に」とは、どういうことなのか？



協議・共有

協議の視点:

- 「命を大切に」ということについて、自分自身との関わりで考えることができていたか。
- これまでの学習を思い出しながら、「命を大切に」ということについて、多面的・多角的に捉え、考えることができていたか。

協議の視点に沿って、生徒の様子から授業の効果(○)や改善策(※)を協議する

○生徒の発言に対する問い返しがあり、自分の発言に対しても深く考えることができていた。また、同じグループ内への生徒への問い返しもあり、全体へ意見を広げることができていた。

○生徒が自分の意見と友達の見解をワークシートに分けて記入していたところが良かった。

○身近な例を挙げ、具体的に自分だったらという視点で、生徒へ考えさせることができていた。

※生徒同士の話し合いでも「つなぐ」キーワードで一人の発言をもっと深めていくとさらに良くなる。

※命のつながりを考えさせるには、マッケンナの家族に話を戻しても良かったのではないだろうか。

参加者の感想

・道徳の授業の中で、生徒の発言をどうつなげるのか、黒板にどのようなことを書くのか(発言全てを書くのか、キーワードにするのか)など、悩みがあったので、今日の授業を見ることができて良かった。

・何を中心に考えさせたいのか、課題の設定で時間配分は大きく変わることを実感できた。子どもの思考がどのように変化したのか分かる板書の工夫がとても大事なことがわかった。

・価値に対して望ましい姿や実現が難しい姿をイメージし、生徒が自分のこととして考えられるような発問を考え、授業をしていきたい。

・板書の構造化や切り返しをどうしたらよいか、学ぶことができた。

協議を踏まえた 授業の振り返り

高知大学

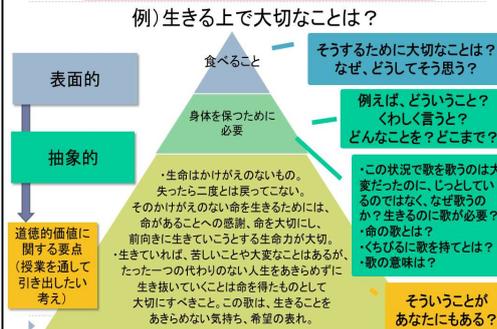
森 有希 准教授

●深い思考ができる発問の工夫は？

→発問は精選し、生徒の意見交流や問い返しで考えを深める

- ・自分との関わりで考えられるように
例)・自分だったら(意思表示) ・自身が問題だと思うことは？
- ・異なる立場や、変容、相違を考えられるように
例)・違う立場では？ ・前と今の違いは？ ・AとBの違いは？
- ・生徒が互いの考えに反応するように
例)・友達の意見についてどう思う？ (同じ、違い、質問など)
- ・道徳的な問題を探究できるように
例)・なぜ？ ・どうしてそう思ったの？ (揺さぶり、問い返し)

思考の段階を図示してみるということも



＜教材分析の項目＞

- ・教材の概要
価値に関して望ましい姿、様子
価値の実現が難しい姿、様子
- ・指導の要点
- ・問題課題の設定
- ・中心発問
- ・ねらい
- ・指導の工夫
具体的発問・活動
評価の視点